

船舶事故調査報告書

平成24年6月14日
 運輸安全委員会（海事専門部会）議決
 委員 横山 鐵 男（部会長）
 委員 庄 司 邦 昭
 委員 根 本 美 奈

事故種類	浸水
発生日時	平成24年2月3日 11時35分ごろ
発生場所	千葉県勝浦市南東方沖 勝浦市所在の勝浦灯台から真方位148° 5.7km 付近 （概位 北緯35° 05.7′ 東経140° 21.0′）
事故調査の経過	平成24年2月6日、本事故の調査を担当する主管調査官（横浜事務所）ほか1人の地方事故調査官を指名した。 原因関係者から意見聴取を行った。
事実情報 船種船名、総トン数 船舶番号、船舶所有者等 L×B×D、船質 機関、出力、進水等	漁船 第三萬坊丸、1.5トン CB3-72530（漁船登録番号）、個人所有 7.98m (Lr) × 2.23m × 0.57m、FRP ディーゼル機関、漁船法馬力数30、平成9年10月
乗組員等に関する情報	船長 男性 51歳 一級小型船舶操縦士・特殊小型船舶操縦士・特定 免許登録日 平成23年6月1日 免許証交付日 平成23年6月1日 （平成28年5月31日まで有効）
死傷者等	軽傷 1人（船長）
損傷	沈没
事故の経過	本船は、船長1人が乗り組み、勝浦市南東方沖を勝浦市松部漁港 ^{まつべ} に向けて速力約15ノット（kn）で北西進中、平成24年2月3日11時35分ごろ、アウトドライブ装置が面（右）舵になったまま効かなくなり、船尾付近が上甲板まで水没して機関が停止し、航行不能となった。 船長は、自宅に救助の要請の電話をし、11時40分ごろ船首を上にした半水没状態の本船から避難した。 通りかかった貨物船は、11時46分ごろ、漂流している本船を発見し、海上保安庁に通報した。 近くにいた僚船は、11時50分ごろ船長を救助し、12時20分ごろ松部漁港に入港した。 船長は、本船より避難する際又は僚船に救助される際に肋骨にひびを負った。 本船は、北東の潮流に流され、17時15分ごろ千葉県御宿町岩和田漁港東北東沖9.0km付近で沈没した。
気象・海象	気象：天気 晴れ、風向 南西、風速 約3m/s、視界 良好 海象：波高 約0.5m、潮流 北東流約1.5kn、潮汐 上げ潮の末期

<p>その他の事項</p>	<p>船長は、本船の出港前点検を行ったが異常は確認せず、操業中も異常はなかった。</p> <p>船長は、本船の船尾付近が水没するまで浸水には全く気付いていなかった。</p> <p>本船は、船長が本船の船尾の水没に気付いてから半水没状態になるまで約5分であった。</p> <p>本船は、平成9年10月に進水しており、船長が、本船を平成22年12月に中古船で購入し、約2年2か月小型兼用船として使用していた。</p> <p>本船の整備状況については、船体は、漁協の上架場上架して船長が行い、機関は、船用機関整備会社に依頼していた。</p> <p>本船は、船内外機船であり、船体の船尾端部にアウトドライブ装置が取り付けられ、船尾端より1つの隔壁を隔てて機関室が配置され、機関室前方寄り上部に操舵室が配置されていた。</p> <p>船長は、救命胴衣を着用し、避難時に救命浮環を使用していた。</p>	
<p>分析</p>	<p>乗組員等の関与 船体・機関等の関与 気象・海象の関与 判明した事項の解析</p>	<p>なし 不明 なし</p> <p>本船は、勝浦市南東方沖を北西進中、船尾付近から浸水したものと考えられる。</p> <p>本船は、機関室と船尾端部の間に1つの隔壁を配置しているが、同隔壁が水密であったかは不明である。</p> <p>本船の浸水箇所は、浸水に気付いてから半水没状態になるまでの時間が短いこと、船尾が水没状態であったこと、及びアウトドライブ装置の操舵ができなくなったことからアウトドライブ装置周辺の可能性があると考えられるが、浸水に至った状況を明らかにすることはできなかった。</p>
<p>原因</p>	<p>本事故は、本船が、勝浦市南東方沖を北西進中、船尾付近から浸水したことにより発生したものと考えられる。</p>	
<p>参考</p>	<p>今後の同種事故等の再発防止に役立つ事項として、次のことが考えられる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・船内外機船においては、出港前にアウトドライブ装置取り付け部周辺の船体を詳細に点検すること。 	